

東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

<http://www.ttsukushi.sakura.ne.jp/>

発行者 眞壁 博美

2017.1.15 第318号

つくしだより



平成29年1月号

誰もが安心して暮らせる社会に

都連会長 眞壁 博美

あけましておめでとございます。皆様の御健康と御多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年4月1日から「障害者差別解消法」が施行されました。障害者にとって、だんだん生きやすい世の中になっていくという希望を持った矢先に、相模原事件が起き、多くの人たちに衝撃を与えました。

この事件の犯人は、極端な優生思想の持ち主でした。でも一般の人たちにも、この「優生思想」が意外と根強いのです。一般の人たちの意識は「障害者は自分達とはかけ離れた特別の人」で自分と対等の人格を持つ人ではなく「かわいそうな人」という感覚があるようです。しかし、障害者と健常者という明確な区別はできないのではないのでしょうか。今は健常者であっても、事故や病気等でいつ障害をもつことになるかはわかりません。また、歳をとれば誰もが身体が弱り、認知症にもなります。そして、「社会の役に立たない人は生きる価値が無い」と皆が考える社会になってしまったら、障害者や老人は、肩身のせまい思いをして生きな

ければなりません。みんなが、社会的弱者に対して「お互いさま」という気持ちで接してくれたら、どんなに皆が安心して生きやすくなるでしょうか。

私の住む立川市では、「障害のある人もない人も共に暮らしやすい立川をつくる条例」を策定するために、市内の障害者団体、支援者団体、行政・市議会議員等が一緒になって頑張っています。条例を策定しても、

1人1人の市民の意識を変えていくことが大事なので、様々な障害を持つ人がどんなことで困っているのかを理解してもらうために、紙芝居をつくったりと、様々な工夫をしています。「障害者にやさしい街は、すべての人にやさしい」を合い言葉に、今年も皆さまと共に精神障害者とその家族が生きやすい社会づくりのために力を尽くします。

◆都議会3月議会に「精神障害者もマル障の対象とすることを求める請願書」提出！

東京都の「心身障害者医療費助成制度（マル障）」は、身体障害者手帳1級・2級の方、愛の手帳1度・2度の知的障害者が対象になっています。この制度を申請して利用すると内科

も外科も歯科でも通院も入院も健康保険の自己負担分（3割）を東京都が負担してくれる、という制度です。つまり、病気になっても医療費の心配をせずにすむのです。精神障害者の自立支援医療の制度は、精神科の通院だけです。支援の幅がグンとひろがります。薬の副作用の心配もある精神障害者にとって、必要な制度です。

昨年9月頃から、「東京マル障の会」を当事者・家族・支援者の人たちとつくり、話し合いを重ねてきました。今年7月の都議選前の都議会に請願署名を出すと効果的ではないかということ、6月都議会を目標とすると準備をしていました。ところが、選挙直前の6月都議会は1日ぐらいで終わってしまい、実質的が審議がされないことが分かり、急ぎよ3月都議会に請願書を出す手続きをしてきました。各家族会には、すでに署名用紙を送っていますが、署名を集約して1月30日（月）に都議会事務局に出しますので、1月25日（水）には東京つくし会宛にポストに投函してください。他県の人の署名もOKです。署名期間がわずかですが、どうぞよろしくお願いします。

「東京つくし会」と署名活動

都連副会長 本田 道子

みなさまには昨年の暮れも押し詰まってからの突然の署名用紙「精神障がい者も東京都心身障害者医療費助成制度の対象にしてください」という呼びかけの請願書が届き、びっくりなさったことでしょう。

実は私達もあまりの急なことの成り行きに「びっくり」なのです。ことの仔細はただただ都議会の都合により、なのです。

つまり今年7月に予定されている都議会議員の改選のため、なのでした。

6月都議会ではほぼ審議はなし、なので都議会にかけるのなら3月の議会に。そのためには2月初めには請願書として議会事務局に届いている必要があったのです。

「か月しかない!!! しかも年末、年始をはさんで。

でも、やってみよう!!!
チャンスがあるなら、努力してみよう!!!
そう 思いました。

私たち「東京つくし会」では毎年東京都と東京都議会に「要望書」を出しています。

私たちが困っているそのほとんど全てのこと

らです。

今年度は「精神障がい者も心身障害者福祉手当の対象にしてください」「中学卒業までに精神保健教育をしっかりとカリキュラムに組み入れてください」を重要項目にしました。

そして他の要望の中に「マル障」のことや西多摩地区に「精神保健福祉センター」が必要なこと、そのほか切羽つまった我々が日々頭を悩まして困っていることの要望をたくさん伝えてはいる、のです。

でも、ご存じのとおり全くなんの変化もなし・・・ただ 要望しているだけ、では全く相手にされないのです。

「請願書」という形になれば都議会の中の「厚生委員会」で審議の対象となります。

私たちの要望のほとんどを取りまとめているところは都の「福祉保健局」や「病院経営本部」というところなので都議会では「厚生委員会」がまず請願書の審議をします。どんな要望なのか「まな板の上」にのる「のです。

結果、これは都民にとって必要、ということになれば委員会提案で都議会での審議があり賛成多数となって、予算が検討される、ということになります。その時に署名の数が多ければ訴える力が強くなるのは当然のことと思いま

す。

我々庶民が「まな板」の上にも上げてもらうまでもやっかいなこと、ですね。

でも今までも福祉は私たちの先輩の親や当事者、支援者の方々がみんな同様の思いをして長い地道な活動の上にできてきたものなのです。

私たちもめげずにしっかりと「顔」を出して。顔が難しければ「声」を出して。すこしががんばってみませんか。チャンス(?) かもしれません。

もし、ダメであったとしても、私たちの手にはなにか、が残っているはずですよ。



狛江さつき会を訪問して

都連会長 眞壁 博美

12月20日(火)の午後、狛江さつき会の定例会で、お話をさせてもらえる機会を得ました。会場は、小田急線の「和泉多摩川駅」東口から徒歩0分という「カレーショップ・メイ」のお店でした。(ここは「NPO法人狛江さつき会」が運営しています)。

私がいただいたテーマは「地域と共に歩む家族会をめざして」でした。家族会の立ち上げ当時と共同作業所づくりのこと。そして現在の立川麦の会の活動について話しました。

立川市の障害者運動の特長は、「NPO法人立川市障害者後援会」という全市民的な組織があり、発足して25年が経っています。身内に障害者がいない人たちも会員になり、立川市商工会議所などの経済界からも理事が出て障害者の活動を支えています。私も発足当時から理事を務めています。毎年2月に開催される「春を呼ぶコンサート」は、市民会館大ホールで千人規模で行われ、今年で18回目を迎えます。

「立川麦の会」は初回から出演。障害者を理解してもらおうには、文化的な活動等で頑張っている当事者の姿を一般市民に見てもらおうことが一番だと思います。

狛江さつき会は、当事者も参加する、とてもアットホームな会でした。

「アビリンピック」ごぞんじですか

都連副会長 本田 道子

毎日のようにメジャーで報道されている東京オリンピックやパラリンピック。ことばは似ているのですが「アビリンピック」は毎年行われているのです。

そして競っているのはスポーツではなく技術や技能。しかも全員が障がいをもつ当事者の方々というのが特色です。

今年も「第15回東京障害者技能競技大会」が2月19日(日)9時15分～15時30分まで、小平市小川西町の「職業能力開発総合大学校」において行われます。

障がいを持つ方々が日頃の技術や技能を互いに競うことで技術のますますの向上や、そのようすを皆さんに公開して観てもらおうことで各企業や会社の方々、そして一般の都民の皆様にも障がいに對する理解を深めてもらおう、というのが目的です。

精神の方のパソコンの部門での参加もあります。ぜひ、一度応援に足を運んでみてくださいませんか。

私たち家族の社会参加はこんなところからも見つけられるかもしれません。

「ふれあいフェスティバル」がありました

都連副会長 本田 道子

毎年12月の「障害者週間」に併せて東京都庁を会場に行われている「ふれあいフェスティバル」。今年は12月5日(月)でした。

36回目を迎え、自立生活障がい者、自立支援功労者の表彰がありました。精神の方の表彰者がなくさびしく思ったことでした。

その後の迫力のある「津軽三味線ライブ」は視覚障がいの「踊 正太郎」さん、そして「ふれあいトークショウ」としてリオパラリンピックの水泳でのメダリスト「木村 敬一」さん、テレビでおなじみの北京オリンピックピックでのメダリスト「宮下 純一」さん、ナビゲーターは「住吉美紀」さんで行われました。

木村さんは視覚に障がいがあります。リオでのお話になり「道行く方々が誰もが気軽にことばをかけてくれるので、日常生活では困ることがなかった。バリアフリーになっていなくてもこの方々がバリアフリーにしてくれた。」とても印象に残った言葉でした。

最後は「府中けやきの森学園」の力いっぱい
の和太鼓で終演となりました。



平成28年度第2回西ブロック会議の報告

都連副会長 川崎 洋子

11月26日(土)、新宿区立落合第一地域センターで開催されました。新宿フレンズ、品川かもめ会、つばさ会、さくら会、あかね会、渋谷太陽の会、杉並家族会、中野たんぽぽ会の8家族会とつくし会担当理事3名の22名が参加しました。リーダー研修会についての意見交換をしました。講演後の8つのグループに分かれての話し合いについては好評でした。交通費助成運動についてはつくし会の役員が分担して、JR東日本など関東の電鉄会社を訪問し、要望していることが報告されました。つくし会の会計については収入源は半分以上が会費収入であり、登録会員を増やす工夫を話し合いました。つくし会の理事候補については数名名前がありましたりましたが、まだ検討を要します。要望活動については「29年度予算に向けての精神保健福祉事業関係の要望書」を都知事あてに提出しましたが、回答は例年と同じもので残念な結果でした。後半は各家族会からの報告です。各家族会が懸命に活性化に挑んでいる姿が報告されました。



講演会のお知らせ

- ☆1/31(火) 障害を理由とする差別の解消に向けた地域フォーラム
基調講演他パネルディスカッションなど 要申込み 問合せ ☎03-6264-6443
場所:練馬区立区民・産業プラザ3階Coconer iホール 主催:内閣府・東京都
- ☆2/11(土) 精神科医として家族・当事者に望むこと
講師:大泉病院社会医療部長 山澤 涼子氏
会場:新宿区立障害者福祉センター 主催:新宿フレンズ ☎03-3987-9788
- ☆2/14(火) うつ病の治療と薬について 場所:府中グリーンプラザ6階大会議室
講師:杏林大学名誉教授 はるの・こころみクリニック院長 精神科医 田島 治氏
主催:府中精神保健福祉協議会 問合せ:地域生活支援センタープラザ ☎042-358-2288
- ☆2/18(土) こころの病気に効く食事と運動 場所:世田谷区立総合福祉センター(さくらぼーと)
講師:国立精神・神経医療研究センター神経研究所 功刀 浩氏 主催:世田谷さくら会 ☎03-3308-1679

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

編集後記

昨年末に二年間お世話になったグループホームから息子が退所し、一人暮らしを始めました。グループホームにお世話になり始めた当初は、いつ逃げ出してくるかなとひやひやしたが一度も家には戻ってくることもなく二年間の生活を無事終えました。この間、私は、なるべく息子とは会わないようにし、職員の皆様のお力を借りることにしました。市役所の手続き、クリニックへの通院、買い物、部屋掃除、食事作り、洗濯、病気の症状への対応など、きめ細かく職員の皆様が支援してくださり、後半では本人だけで通院、市役所の手続き、作業所への通所等沢山の事ができるようになりました。また、他の仲間の皆さんとの会話が一番苦手でしたが、それも出来るようになり本人も自信がついたのではと思います。私は、グループホームでの生活でとても大事だったのは、同じ病気で悩み苦しんでいるのが自分一人だけではないことを理解できたことだと思えます。

転居先探してから引越し作業まですべて職員の皆様がやってくれました。引越し後も時々様子見や、部屋掃除のお手伝いをしてくれています。もう感謝の一言です。

都連副会長

植松 和光



つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。